

■筒井政憲 幕臣。名奉行といわれ、高齢おして日露和親条約等対外問題に奔走、儒者としても業績を遺した。

つついまさのり

ツツ船蝦夷来 1778＝ 江戸の屋敷で、武勇の家柄として知られる旗本久世広景の次男に生まれる。

田沼意次失脚 1786＝ 8歳：
寛政改革始・1787＝ 9歳：

松平定信引退 1793＝15歳：
文武に励み、昌平坂学問所に学んで頭角を現わし、

フートン来航・1796＝18歳：

古事記伝・・・1798＝20歳：旗本筒井正盈の養子となる。

アメリカ船来航始 1803＝25歳： 幕府学問試験甲科に首席で及第、

青洲麻醉手術 1805＝27歳：

・・・・・・1810＝32歳： 二ノ丸留守居となるとともに学問所御用を兼帯し、
ゴロウニン拿捕 1811＝33歳：城内で料理頂戴の荣誉に浴した際、養父と地位逆転、これを知った将軍が急遽正盈を徒頭に任命後、
高田屋拿捕・1812＝34歳：養父が隠居して家督を譲られる形で、西ノ丸徒頭となり、
浮世床・・・・1813＝35歳：西ノ丸目付、
黒住教・・・・1814＝36歳：
・・・・・・1815＝37歳：目付と累進して、

杉田玄白没・1817＝39歳：*長崎奉行に抜擢されると、
水野忠成老中 1818＝40歳：
役得を使わず清廉な役人として長崎の町民から慕われ、

伊能図完成・1821＝43歳：*不祥事で前任者が解任となった江戸南町奉行に急遽任命される。

シボム来日・1823＝45歳：

・・・・・・1826＝48歳：近藤重蔵の改易を処理、

鼠小僧磔・・・・1832＝54歳：
天保大飢饉始 1833＝55歳：この年から始まった天保の大飢饉対策など、 民政に全般にわたって弱者の立場に立って名采配、

滑稽+人情本 1835＝57歳： 仙石騒動に巻き込まれて免職、西丸留守居役に左遷されるも、

大塩平八郎乱 1837＝59歳：
まもなく復帰して、名奉行と称され、

勲進帳初演・1840＝62歳：永年精勤の功で500石加増され、
天保改革始・1841＝63歳： 最長となる約20年間務めて、西ノ丸留守居に転任。
天保改革弾圧 1842＝64歳： 町奉行矢部定謙の処罰に連座して差拍の処分を受けるなど、
幕府天保の改革期には冷遇されたが、対外的危機が迫るとともに老中阿部正弘から信任をうけて頻繁に外交策の諮問をうけ、打払令復活などの強硬策に一貫して反対し続けた。
阿部正弘首座 1845＝67歳： 町奉行在任中の事件の責任をとらされて、留守居役から小普請に左遷されるが、再び学問所御用となり、
林大学頭に代わって、将軍に進講するなどし、
・・・・・・1847＝69歳： 阿部正弘の命で、西ノ丸留守居に復帰、海防政策の立案に参画した。
・・・・・・1848＝70歳：「武蔵国風土記之内御府内之部」、

国定忠治磔・1850＝72歳：「御鹿狩之事類」を編集し、

万次郎帰国・1852＝74歳：将軍に「論語」の講釈を行うなど、儒者としての能力も示し、
ペリー来航・1853＝75歳： ロシア使節プチャーチンが来ると、大目付格のロシア使節応接掛として、川路聖謨と長崎に赴いて交渉、
開国開港・・・・1854＝76歳：*下田に再来航したプチャーチンと交渉し、日露国境の確定と下田・箱館・長崎三港の開港を骨子とした日
露和親条約の締結にこぎつけた。

安政大地震・1855＝77歳：講武所御用、

蕃書調所・・・・1857＝79歳： 鎗奉行となり、
高齢をおして海防・外国人応接・軍制改革・蕃書調所御用に奔走するうち、

安政の大獄・1859＝81歳： 没した。
幕末の西洋流砲術家下曾根金三郎はその第二子である。

インターネットWikipedia、